

# JZ990D37501B

**MITSUBISHI** *Changes for the Better*  
ZJ-2044B

三菱パウダクラッチ・ブレーキ

ZKB-AN・BN形パウダクラッチ  
ZKB-YN・XN形パウダブレーキ

**取扱説明書**

マニュアル番号	JZ990D37501
副番	B
作成日付	2006年10月

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」はご使用前に必ず読んで正しくお使いください。  
取扱説明書は大切に保管するとともに、必ず最終ユーザまでお届けしてください。

この印刷物は2006年10月発行です。なお、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

**安全上のご注意** (ご使用前に必ずお読みください)

製品のご使用に際しては、この取扱説明書や技術資料等を良くお読みいただくとともに、安全に対して十分に注意を払って正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。このマニュアルでは、安全に関する注意事項のランクを

△危険 △注意

△危険	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起りえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
△注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起りえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合、および物的損害だけの発生が想定される場合。

品質管理には万全を期していますが、万一の故障として、クラッチが切れず連続運転状態となったり、ブレーキが利かず機械が惰走することが想定されますので、これらの故障に備え機械側の安全対策には十分ご配慮ください。  
なお、この取扱説明書は必要ときに取り出して読めるよう大切に保管するとともに、必ず最終ユーザまでお届けくださいようお願いいたします。

△危険	保護カバーを必ず設置してください。
	回転体が外部に露出しており、製品に手・指等身体が触れると危険です。身体が触れないように必ず風通しの良い保護カバーを設置してください。また、カバーを開けたときには回転体が急停止するように安全機構を設けてください。

△危険	引火・爆発の危険がある雰囲気では使用しないでください。
	スリップ中は内部の動作面で火花が発生することがあります。引火・爆発の危険がある油脂・可燃性ガス雰囲気などでは絶対に使用しないでください(耐圧防爆形パウダクラッチの使用をご検討ください)。また、綿等燃えやすい所では本体を密閉するようしてください。なお、密閉する場合は許容スリップ工率が低下するのでご注意ください。

△危険	水、油脂類が浸入しないようにしてください。
	動作面はもちろん、本体に水・油脂類がかかると動作面に付着しトルクが著しく低下します。そのため、機械が惰走したり、暴走したりして怪我の原因になります。

△注意	周囲環境をご確認ください。
	埃・高温・結露・風雨・オイルミストにさらされる所には使用しないでください。また、振動・衝撃がかかる場所にも直接取り付けしないでください。製品の損傷・誤動作あるいは性能の劣化を招きます。

三菱電機及び三菱電機指定以外の第三者によって修理・分解・改造されたこと等に起因して生じた損害等につきましては責任を負いかねますのでご了承ください。したがって、修理・分解は当社指定のサービスネットワークにて行っていただきますようお願いいたします。

この安全上のご注意、取扱説明書や技術資料に記載されている仕様をお断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

## 1. ご使用前の注意

△注意	リード線で製品を吊り下げて持たないでください。
	リード線が切れて足元に落下し怪我の原因になります。必ず製品自体を持って取付け・取外しをしてください。
△注意	長期に渡り使用しないときは、湿度の少ない場所や、内部に湿気の入らない方法で保管してください。
	クラッチ/ブレーキ内部に湿気が入ると、錆が発生して使用不能になったり、性能の劣化を招きます。

- 1) 内部にはパウダが入っていますので衝撃を与えたり、傾けたりしないようにしてください。
- 2) 湿気の多い場所に放置しないようにしてください。
- 3) リード線は引っ張ったりして損傷しないよう取扱いにご注意ください。

## 2. 構造ならびに動作原理

- クラッチの構造を図1に示します。入力側につながるドライブメンバと出力側につながるドリブンメンバとが同心円上にパウダギャップをへだたてて配置されています。
- パウダギャップには、パウダ(磁性鉄粉)が充てんしてあり、パウダに磁束を通すためのコイルがステータに内蔵されており外部よりリード線を通じて直流電流を給電する構造になっています。
- なお、ZKB-0.3、0.6AN/YNはステータがなくブラケットと一体になっています。
- ブレーキは図2に示すようにドリブンメンバと励磁コイル部が一体になっています。
- いま、ドライブメンバが回転している時、コイルに電流を流すと図の破線で示すように磁束が発生し、パウダは磁束にそってあたかも鎖のようにつながり、その連結力によってドリブンメンバは駆動され出力側にトルクを伝達します。励磁電流を切ると磁束は消滅しパウダの連結力はなくなりドリブンメンバへの動力の伝達はなくなります。

図1 ZKB形パウダクラッチ構造図(代表例)

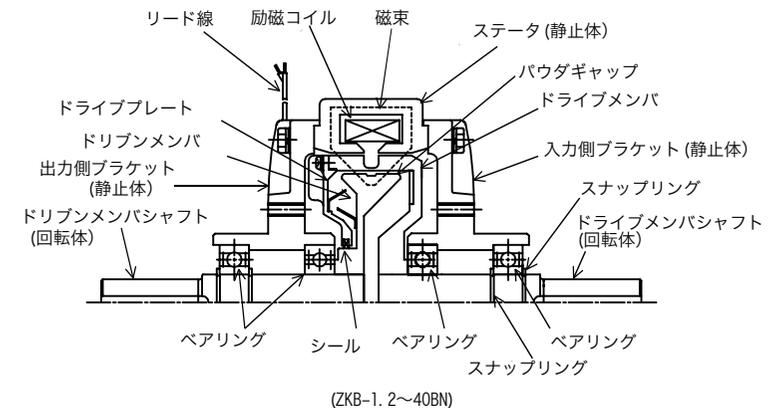
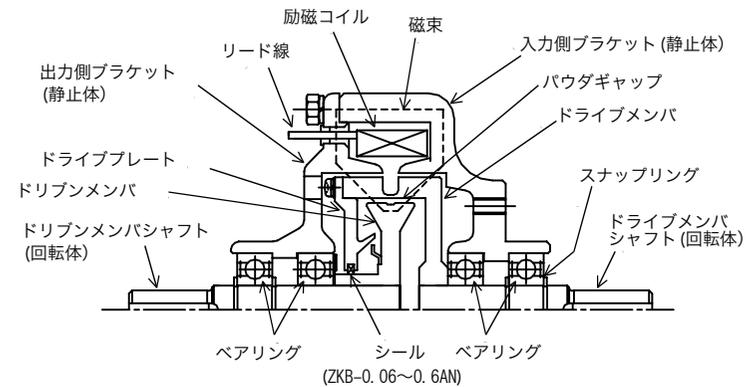
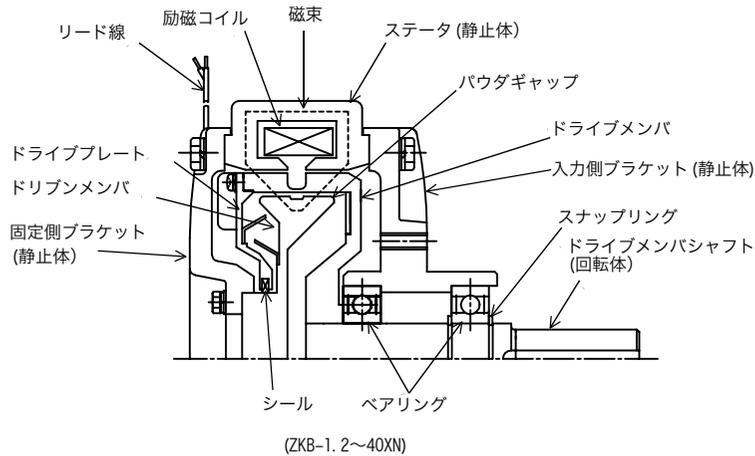
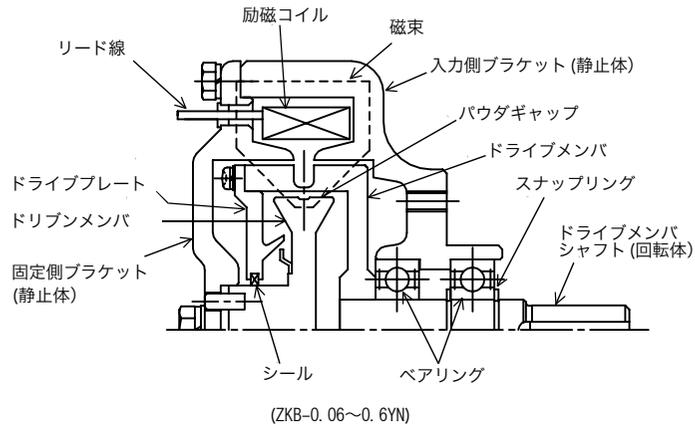


図1 ZKB形パウダクラッチ構造図(代表例)

(ZKB-1.2~40BN)

図2 ZKB形パウダブレーキ構造図(代表例)



### 3. クラッチ・ブレーキの組み込み

	<b>危険</b> 電源を切った上、回転体が静止しているのを確認してください。
	回転中に作業を行うことは感電・怪我の原因になります。取付け・取外し・調整に際しては必ず電源を切った上、回転体が静止していることを確認の上作業を行ってください。この際、指等が挟まれないよう十分にご注意願います。
	<b>危険</b> ボルトの締付トルク・緩み止めは完全に行ってください。
	ボルトの締め付け具合によっては、せん断して破損するなど怪我の原因になります。必ず規定の締付トルク・ボルト材料を使用し、接着剤・スプリングワッシャ等で確実に緩み止めの処置を行ってください。また、製品を構成する部品は相対回転するので締付ける部品はしっかり固定して作業してください。 なお、ボルト強度・締付トルクの値は仕様に記載しています。
	<b>危険</b> リード線の接続は確実にしてください。
	感電の原因になります。接続は電氣的・機械的に確実にするとともに、絶縁を施してください。
	<b>危険</b> 直流遮断する場合、励磁コイルと並列にサージアブソーバをご使用ください。
	通電を遮断すると大きなサージ電圧が発生することがあり、周辺機器へ悪影響を与えることがあります。したがって、サージアブソーバ(例:ダイオード、バリスタ、保護抵抗器等)をご使用ください。
	<b>危険</b> 電流量に合った電線サイズをご使用ください。
	電流量の少ない電線を使用すると、絶縁皮膜が溶けて絶縁不良となり感電・漏電の恐れがあるほか、火災の原因になることがあります。なお、製品の電流は仕様に記載しています。
	<b>注意</b> 質量に合った作業を行ってください。
	腰痛や落下により怪我の原因になります。取付け、取外し、運搬に際しては、その質量に合った方法で行ってください。 特に、アイボルト付製品はホイストなどを利用して作業を行ってください。なお、製品の質量は仕様に記載しています。

(注)アイボルトを利用したのホイスト作業は有資格者により行ってください。

- 1) 取付けのはめあいはずべてすきまばめとし、組込作業はすべて衝撃や無理な力をかけないようにしてください。
- 2) パウダクラッチは、高速回転側が入力側となる正規の取付状態で使用してください。  
(銘板に矢印にて入力側・出力側を示しています。)  
また、クラッチ・ブレーキとも軸が水平になるように取付けて使用してください。
- 3) 入力側・出力側との連結には、必ず弾性カップリングを使用してください。
- 4) プーリー連結する場合は、ベルト張力に注意し必要以上の初期張力を与えないでください。
- 5) 励磁コイルは電圧の極性(+、-)はありません。

### 4. 運転

	<b>危険</b> 運転中には製品に手を触れないでください。
	回転体が外部に露出しているため製品に手・指等の身体が触れると怪我の原因になります。運転中には手や指が触れないように風通しの良い保護カバーで覆うとともに、カバーをあけたときに急停止するように安全機構を設けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通常の場合、ならし運転は必要ではありませんが、ショックがあった場合または機械の運転状況によってはならし運転が必要な場合があります。この場合は下記の要領でならし運転を行ってください。なお、パウダを交換した時は必ずならし運転を行ってください。</li> <li>• 強制空冷を行う時、エア導入部へは完全脱油・脱水式のエアフィルターが装着されているか確認ください。</li> </ul>
	1) ならし運転要領
	<b>危険</b> 許容回転速度を超えて使用しないでください。
	許容回転速度を超えて使用すると振動が大きくなるなどして破損し飛散しますので非常に危険です。必ず許容回転速度以内として保護カバーを設置してください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無励磁のままの状態ではドライブメンバを200r/min程度で1分間程度回転させた後、励磁電流を定格値の1/4~1/2に設定し、ドライブメンバを回転させながら励磁電流を5秒間ON、10秒間OFFのサイクルで10回程度行ってください。</li> <li>・ なお、負荷が小さい場合は、出力軸を固定して行ってください。</li> </ul>
	2) ならし運転の完了
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ならし運転が不十分な間はトルクの出方が低かったり、トルクが変動したりしますが、ならし運転が十分行われパウダが有効に動作するようになると、励磁電流に対応したトルクが出るようになります。</li> <li>・ ならし運転が終了してから正規の運転を行ってください。</li> </ul>
	使用条件によっては、ドライブメンバの表面温度が相当上がる場合がありますが、自然冷却の場合表面温度は100℃以下、強制空冷の場合は70℃以下の状態で使用することを厳守してください。表面温度が規定以上になる時は使用条件をゆるくしてクラッチ・ブレーキのオーバーヒートを防止してください。 なお、表面温度は、あくまで目安として考え、必ず許容連続スリップ工率内で使用願います。 特に強制空冷では、規定の風量を送り続け、運転休止時にもステータの表面温度が周囲温度と同一になるまで送風を続けてください。表面温度が周囲温度と同一になった後は防湿上好ましくありませんので停止してください。 (表面温度は周囲温度30℃を基準にしております。また、周囲温度は0℃~40℃の範囲内でご使用ください。)
	<b>注意</b> 温度測定は計測器をご使用ください。
	直接手で触れると火傷の原因になります。必ず電源を切った上、回転体が静止していることを確認して計測器で測定してください。 なお、測定はすみやかに行ってください。

## 5. トルク調整

**◇危険** 定格トルク以内でご使用ください。

定格トルクを超えて使用すると性能が劣化するうえに機械的に破損し怪我の原因になります。したがって、定格トルク以内でご使用ください。特に定格電流でも定格以上のトルクが発生するので電流-トルク特性を確認して励磁電流を調整してください。(トルクは使用すると徐々に低下しますので、初期は余裕をみて製造しています。)

- トルクと励磁電流の関係は図3に示すようにほぼ比例していますので、電流を調整することによって容易にトルクの調整ができます。
- 製品の仕上がり、または作業状態などを考慮して適正な値に設定してください。

**◇危険** 許容連続スリップ工率以内でご使用ください。

許容スリップ工率を超えて使用すると、発熱が大きくなり動作面が赤熱し火災の原因になることがあります。また所定の性能が得られなくなりますので、許容連続スリップ工率以内でご使用ください。

図3 励磁電流対トルク特性(代表例)

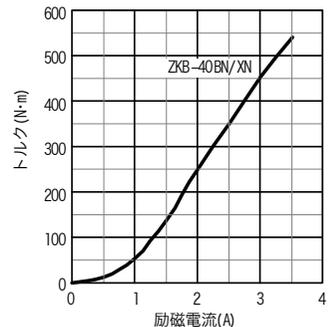
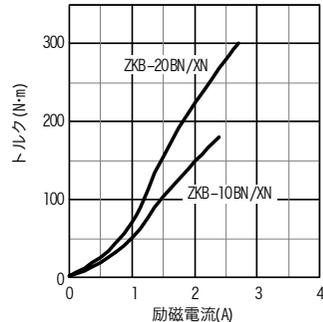
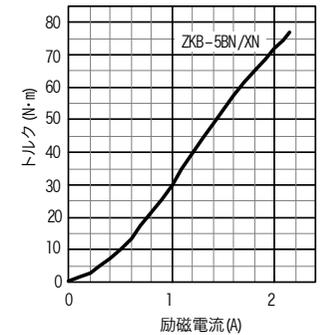
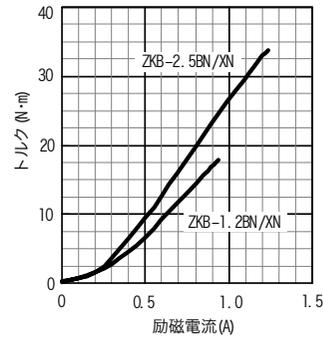
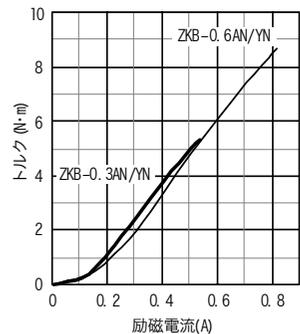
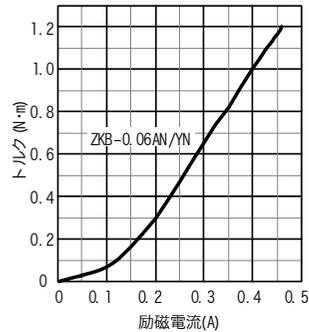
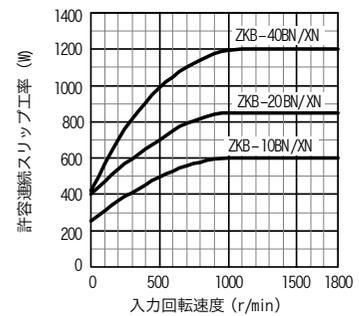
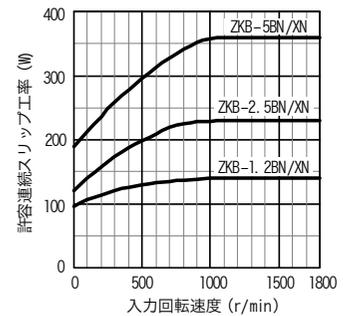
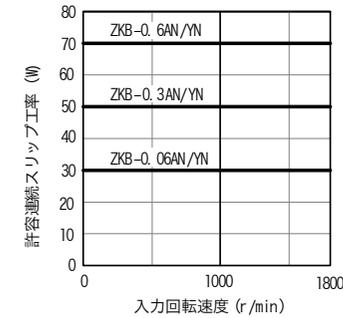


図4 許容連続スリップ工率特性



- パウダが湿ると性能が出ないことがありますので、水や油分が製品内部に浸入しないように考慮してください。特にギヤボックスに近づけて使用する場合には、シャフトを伝わってオイルが浸入する場合がありますので、オイルのシールは完全に行ってください。
- 使用条件によってパウダの寿命が異なるため、パウダの交換時期は明示できませんが、トルクが初期の値の70%以下に減少すれば交換時期と判断します。しかし、実際にはトルク値の確認は困難なので製品の仕上がり、作業状態などから判断してください。また、トルクが低下しても、励磁電流を上げればトルクは上がりますが、定格電流まで上げて必要トルクが出なくなった場合にはパウダを交換してください。なお、パウダの交換は当社指定のサービスネットワークにて行ってください。
- カップリング取付用のボルトなどの緩みがないかチェックしてください。

**△注意** 製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱ってください。

## 7. 故障の発見と処置

故障の状態	故障の原因	処置
<ul style="list-style-type: none"> <li>トルクの出方が低い。</li> <li>励磁電流を流してもトルクが発生しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ならし運転の不足。</li> <li>水または油によってパウダが湿っている。</li> <li>パウダの劣化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再度ならし運転を行う。</li> <li>パウダの交換。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>電流を流さないのにトルクが発生する。</li> <li>回転毎にトルクが変動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベアリング不良。</li> <li>パウダの劣化、焼結。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベアリングの交換。</li> <li>パウダの交換。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>表面温度が90°Cを超える。(自然冷却)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーバーロード。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用条件を緩くする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>表面温度が70°C以上になる。(強制空冷)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーバーロード。</li> <li>風量不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用条件を緩くする。</li> <li>風量を増加する。</li> </ul>

**△注意** 温度測定は計測器をご使用ください。

直接手で触れると火傷の原因になります。必ず電源を切った上、回転体が静止していることを確認して計測器で測定してください。なお、測定はすみやかに行ってください。

## 6. 保守

次の項目について点検してください。

**◇危険** 電源を切った上、回転体が静止しているのを確認してください。

回転中に作業を行うことは感電・怪我の原因になります。点検に際しては必ず電源を切った上、回転体が静止していることを確認の上作業を行ってください。この際、指等が挟まれないよう十分にご注意ください。

なお、故障の状態が手に負えない時、または部品を交換する時には、クラッチの形名のほかに製造番号もあわせて当社代理店、サービスセンター、または営業所までご連絡ください。また、修理・分解は当社指定のサービスネットワークにて行っていただきますようお願いいたします。

三菱電機及び三菱電機指定以外の第三者によって修理・分解・改造されたこと等に起因して生じた損害につきましては責任を負いかねますのでご了承ください。

## 8. 仕様

定格電圧：DC24V										
仕様	形名	ZKB-0.06AN 0.06YN	ZKB-0.3AN 0.3YN	ZKB-0.6AN 0.6YN	ZKB-1.2BN 1.2XN	ZKB-2.5BN 2.5XN	ZKB-5BN 5XN	ZKB-10BN 10XN	ZKB-20BN 20XN	ZKB-40BN 40XN
トルク (N・m)		0.6	3	6	12	25	50	100	200	400
定格電流 (A/75°C)		0.46	0.53	0.81	0.94	1.24	2.15	2.4	2.7	3.5
コイル抵抗 (Ω/75°C)		52.1	45.1	29.7	25.6	19.3	11.2	10.0	8.9	6.9
コイル絶縁抵抗	DC500Vメガーで10MΩ以上／常温、常湿にて									
パウダ質量 (g)		3.5	7.5	10	20	33	60	140	225	370
製品質量 (kg)	AN/BN	1.8	3.3	4.0	5.5	10	16	37	58	108
	YN/XN	1.7	3.1	3.7	5.2	9.0	14.5	34	53	100
ベアリング		6000	6202	6202	6003	6005	6206	6307	6308	6310
自然冷却時の許容連続スリップ工率 (W)	図4参照									
強制空冷時	風圧 (×10 <sup>4</sup> Pa)	—	—	—	3	5	10	6	5	20
	風量 (m <sup>3</sup> /min)	—	—	—	0.2	0.4	0.6	1.1	1.6	2.0
	許容連続スリップ工率 (W)	—	—	—	250	380	700	1100	1900	2800
ブラケット締付けベルト強度	ボルト・小ねじの機械的性質JIS B 1051の強度区分Ⅱ欄7T相当以上をご使用ください。									
締付けトルク (N・m)		5.5～7.0			8.0～13.5			39～65		65～109
許容回転速度 (r/min)		1800					1800			

- 1) ベアリングはパウダクラッチ/ブレーキの特性を生かすよう耐熱性等を考慮した特殊品です。
- 2) 風圧は参考値です。

## 9. その他

- 1) 名板の形名に、例えばZKB-5BN-001のように、001の3桁の数字がついている製品は、取付寸法・電圧・その他が特殊であり、この取扱説明書と相違する所がありますが、基本的な動作・取扱いの注意内容は変わりませんのでご了承ください。
- 2) 構造図は代表例です。仕様を含めて機種・特殊内容によっては異なることがあります。詳細はお問い合わせください。

保証について  
 当社の責に帰すことができない事由から生じた損害、当社製品の故障に起因するお客様での機械損失、逸失利益、当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、二次災害、事故補償、当社製品以外への損害およびその他の業務に対する保証については、当社は責任を負いかねます。

**安全にお使いいただくために**

- ・この製品は一般工業を対象とした汎用品として製作されたもので、人命にかかわるような状況下使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。
- ・この製品を原動力用、電力用、航空宇宙用、医療用、乗用移動体用の機器あるいはシステムなどの特殊用途への適用をご検討の際には、当社の営業窓口までご照会ください。
- ・この製品は厳重な品質体制の下に製造しておりますが、この製品の故障により重大な故障または損失の発生が予測される設備への適用に際しては、バックアップやフェールセーフ機能をシステムの的に設置してください。

**三菱電機株式会社** 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号(東京ビル)

お問い合わせは下記どうぞ		
本社機器営業部.....	(03) 3218-6740	中部支社..... (052) 565-3326
北海道支社.....	(011) 212-3793	豊田支店..... (0565) 34-4112
東北支社.....	(022) 215-4546	関西支社..... (06) 6347-2821
関東支社.....	(048) 600-5835	中国支社..... (082) 248-5445
新潟支店.....	(025) 241-7227	四国支社..... (087) 825-0055
神奈川支社.....	(045) 224-2623	九州支社..... (092) 721-2247
北陸支社.....	(076) 233-5502	

**三菱電機システムサービス(株)** サービスのお問合せは下記へどうぞ

北日本支社.....	(022) 238-1761	中部支社.....	(052) 722-7601	中国支社.....	(082) 285-2111
北海道支店.....	(011) 899-7515	北陸支店.....	(076) 252-9519	四国支店.....	(087) 831-3186
東京機電支社.....	(03) 3464-5521	関西機電支社.....	(06) 6458-9728	倉敷機電SS.....	(086) 448-5532
神奈川機電SS.....	(045) 938-5420	京滋機電SS.....	(075) 611-6211	九州支社.....	(092) 483-8208
関東機電SS.....	(048) 652-0378	姫路機電SS.....	(079) 281-1141	長崎機電SS.....	(095) 834-1116
新潟機電SS.....	(025) 241-7261				

インターネットによる三菱電機FA機器技術情報サービス

MELFANSweb ホームページ：<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb/>

三菱電機FA機器電話、FAX技術相談			
●電話技術相談窓口(姫路製作所) ※土・日・祝祭日除く			
対象機種	電話番号	受付時間※	
デションコントローラ全般 クラッチブレーキ全般	079-298-9868	月曜、火曜、木曜	9:00～19:00
		水曜、金曜	9:00～17:00
●FAX技術相談窓口(FAX技術相談センター) ※土・日・祝祭日除く			
対象機種	FAX番号	受付時間※	
上記対象機種	052-719-6762	9:00～16:00(受信は常時)	

# JZ990D37501B

**MITSUBISHI** Changes for the Better  
ZJ-2044B

三菱パウダクラッチ・ブレーキ

ZKB-AN・BN形パウダクラッチ  
ZKB-YN・XN形パウダブレーキ

取扱説明書

マニュアル番号	JZ990D37501
副番	B
作成日付	2006年10月

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」はご使用前に必ず読んで正しくお使いください。取扱説明書は大切に保管するとともに、必ず最終ユーザーまでお届けしてください。

この印刷物は2006年10月発行です。なお、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

## 安全上のご注意 (ご使用前に必ずお読みください)

製品のご使用に際しては、この取扱説明書や技術資料等を良くお読みいただくとともに、安全に対して十分に注意を払って正しい取扱いをしていただくようお願いします。このマニュアルでは、安全に関する注意事項のランクを(危険) (注意)として区分してあります。

<b>危険</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こり、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
<b>注意</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こり、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合、および物的損害だけの発生が想定される場合。

品質管理には万全を期していますが、万一の故障として、クラッチが切れず連続運転状態となったり、ブレーキが利かず機械が惰走することが想定されますので、これらの故障に備え機械側の安全対策には十分ご注意ください。なお、この取扱説明書は必要なときに取り出して読むよう大切に保管するとともに、必ず最終ユーザーまでお届けいただくようお願いします。

<b>危険</b>	保護カバーを必ず設置してください。
	回転体が外部に露出しており、製品に手・指等身体が触れると危険です。身体が触れないように必ず風通しの良い保護カバーを設置してください。また、カバーを開けたときには回転体が急停止するように安全機構を設けてください。

<b>危険</b>	引火・爆発の危険がある雰囲気では使用しないでください。
	スリップ中は内部の動作面で火花が発生することがあります。引火・爆発の危険がある油脂・可燃性ガス雰囲気などでは絶対に使用しないでください(耐圧防爆形パウダクラッチの使用をご確認ください)。また、綿等燃えやすい所では本体を密閉するようにしてください。なお、密閉する場合は許容スリップ工率が低下するのでご注意ください。

<b>危険</b>	水、油脂類が浸入しないようにしてください。
	動作面はもちろん、本体に水・油脂類がかかると動作面に付着しトルクが著しく低下します。そのため、機械が惰走したり、暴走したりして怪我の原因になります。

<b>注意</b>	周囲環境をご確認ください。
	埃・高温・結露・風雨・オイルミストにさらされる所には使用しないでください。また、振動・衝撃がかかる場所にも直接取りつけないでください。製品の損傷・誤動作あるいは性能の劣化を招きます。

三菱電機及び三菱電機指定以外の第三者によって修理・分解・改造されたこと等に起因して生じた損害等につきましては責任を負いかねますのでご了承ください。したがって、修理・分解は当社指定のサービスネットワークにて行っていただきますようお願いいたします。

この安全上のご注意、取扱説明書や技術資料に記載されている仕様をお断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

## 1. ご使用前の注意

<b>注意</b>	リード線で製品を吊り下げて持たないでください。
	リード線が切れて足元に落下し怪我の原因になります。必ず製品自体を持って取付け・取外しをしてください。
<b>注意</b>	長期に渡り使用しないときは、湿度の少ない場所や、内部に湿気の入らない方法で保管してください。
	クラッチ/ブレーキ内部に湿気が入ると、錆が発生して使用不能になったり、性能の劣化を招きます。

- 1) 内部にはパウダが入っていますので衝撃を与えたり、傾けたりしないようにしてください。
- 2) 湿気の多い場所に放置しないようにしてください。
- 3) リード線は引っ張ったりして損傷しないよう取扱いにご注意ください。

## 2. 構造ならびに動作原理

- クラッチの構造を図1に示します。入力側につながるドライブメンバと出力側につながるドリブンメンバとが同心円上にパウダギャップをへだてて配置されています。
- パウダギャップには、パウダ(磁性鉄粉)が充てんしてあり、パウダに磁束を通すためのコイルがステータに内蔵されており外部よりリード線を通じて直流電流を給電する構造になっています。
- なお、ZKB-0.3、0.6AN/YNはステータがなくブラケットと一体になっています。
- ブレーキは図2に示すようにドリブンメンバと励磁コイル部が一体になっています。
- いま、ドライブメンバが回転している時、コイルに電流を流すと図の破線で示すように磁束が発生し、パウダは磁束によってあたかも鎖のようにつながり、その連結力によってドリブンメンバは駆動され出力側にトルクを伝達します。励磁電流を切ると磁束は消滅しパウダの連結力はなくなりドリブンメンバへの動力の伝達はなくなります。

図1 ZKB形パウダクラッチ構造図(代表例)

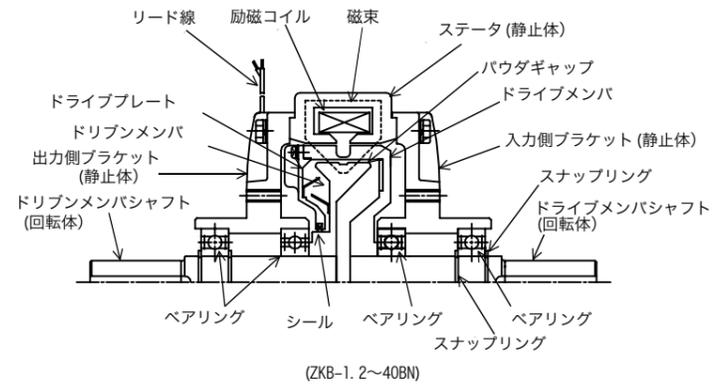
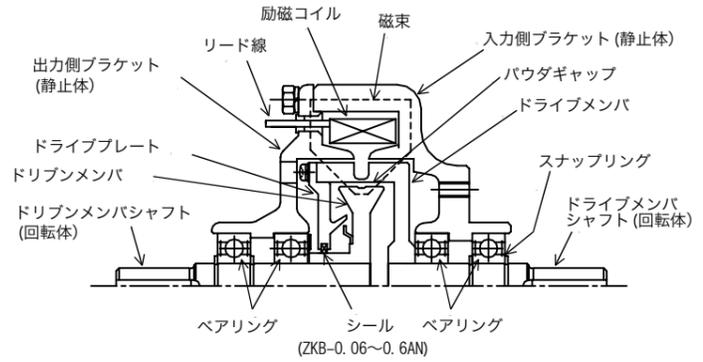
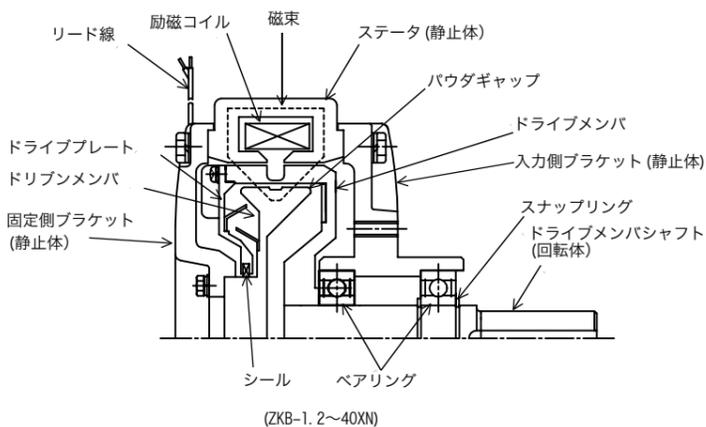
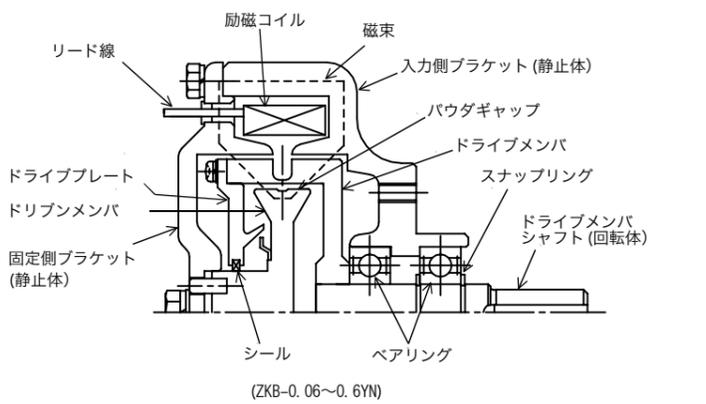


図2 ZKB形パウダブレーキ構造図(代表例)



## 3. クラッチ・ブレーキの組込み

<b>危険</b>	電源を切った上、回転体が静止しているのを確認してください。
	回転中に作業を行うことは感電・怪我の原因になります。取付け・取外し・調整の際には必ず電源を切った上、回転体が静止していることを確認の上作業を行ってください。この際、指等が挟まれないよう十分にご注意願います。
<b>危険</b>	ボルトの締付トルク・緩み止めは完全に行ってください。
	ボルトの締め付け具合によっては、せん断して破損するなど怪我の原因になります。必ず規定の締付トルク・ボルト材料を使用し、接着剤・スプリングワッシャー等で確実に緩み止めの処置を行ってください。また、製品を構成する部品は相対回転するので締付ける部品はしっかり固定して作業してください。なお、ボルト強度・締付トルクの値は仕様に記載しています。
<b>危険</b>	リード線の接続は確実にしてください。
	感電の原因になります。接続は電氣的・機械的に確実にするとともに、絶縁を施してください。
<b>危険</b>	直流遮断する場合、励磁コイルと並列にサージアブソーバをご使用ください。
	通電を遮断すると大きなサージ電圧が発生することがあり、周辺機器へ悪影響を与えることがあります。したがって、サージアブソーバ(例:ダイオード、バリスタ、保護抵抗器等)をご使用ください。
<b>危険</b>	電流量に合った電線サイズをご使用ください。
	電流量の少ない電線を使用すると、絶縁皮膜が溶けて絶縁不良となり感電・漏電の恐れがあるほか、火災の原因になることがあります。なお、製品の電流は仕様に記載しています。
<b>注意</b>	質量に合った作業を行ってください。
	腰痛や落下により怪我の原因になります。取付け、取外し、運搬の際には、その質量に合った方法で行ってください。特に、アイボルト付製品はホイストなどを利用して作業を行ってください。なお、製品の質量は仕様に記載しています。

(注)アイボルトを利用するのホイスト作業は有資格者により行ってください。

- 1) 取付けのはめあいはすべてすきまばめとし、組込作業はすべて衝撃や無理な力をかけないようにしてください。
- 2) パウダクラッチは、高速回転側が入力側となる正規の取付状態で使用してください。(銘板に矢印にて入力側・出力側を示しています。) また、クラッチ・ブレーキとも軸が水平になるように取付けて使用してください。
- 3) 入力側・出力側との連結には、必ず弾性カップリングを使用してください。
- 4) プーリー連結する場合は、ベルト張力に注意し必要以上の初期張力を与えないでください。
- 5) 励磁コイルは電圧の極性(+、-)はありません。

## 4. 運転

<b>危険</b>	運転中には製品に手を触れないでください。
	回転体が外部に露出しているため製品に手・指等の身体が触れると怪我の原因になります。運転中には手や指が触れないように風通しの良い保護カバーを覆うとともに、カバーをあけたときに急停止するように安全機構を設けてください。
	通常の場合、ならし運転は必要ではありませんが、ショックがあった場合または機械の運転状況によってはならし運転が必要な場合があります。この場合は下記の要領でならし運転を行ってください。なお、パウダを交換した時は必ずならし運転を行ってください。
	強制空冷を行う時、エア導入部へは完全脱油・脱水式のエアフィルターが装着されているか確認ください。
	1) ならし運転要領
<b>危険</b>	許容回転速度を超えて使用しないでください。
	許容回転速度を超えて使用すると振動が大きくなるなどして破損し飛散しますので非常に危険です。必ず許容回転速度以内として保護カバーを設置してください。
	・無励磁のままの状態ではドライブメンバを200r/min程度で1分間程度回転させた後、励磁電流を定格値の1/4~1/2に設定し、ドライブメンバを回転させながら励磁電流を5秒間ON、10秒間OFFのサイクルで10回程度行ってください。
	・なお、負荷が小さい場合は、出力軸を固定して行ってください。
	2) ならし運転の完了
	・ならし運転が不十分な間はトルクの出方が低かったり、トルクが変動したりしますが、ならし運転が十分行われパウダが有効に動作するようになると、励磁電流に対応したトルクが出るようになります。
	・ならし運転が終了してから正規の運転を行ってください。

使用条件によっては、ドライブメンバの表面温度が相当上がる場合がありますが、自然冷却の場合表面温度は100℃以下、強制空冷の場合は70℃以下の状態で使用することを厳守してください。表面温度が規定以上になる時は使用条件をゆるくしてクラッチ・ブレーキのオーバーヒートを防止してください。

なお、表面温度は、あくまで目安として考え、必ず許容連続スリップ工率内で使用願います。特に強制空冷では、規定の風量を送り続け、運転休止時にもステータの表面温度が周囲温度と同一になるまで送風を続けてください。表面温度が周囲温度と同一になった後は防湿上好ましくありませんので停止してください。(表面温度は周囲温度30℃を基準にしております。また、周囲温度は0℃~40℃の範囲内でご使用ください。)

<b>注意</b>	温度測定は計測器をご使用ください。
	直接手で触れると火傷の原因になります。必ず電源を切った上、回転体が静止していることを確認して計測器で測定してください。なお、測定はすみやかに行ってください。

## 5. トルク調整

<b>危険</b>	定格トルク以内で使用ください。
	定格トルクを超えて使用すると性能が劣化するうえに機械的に破損し怪我の原因になります。したがって、定格トルク以内で使用ください。特に定格電流でも定格以上のトルクが発生するので電流-トルク特性を確認して励磁電流を調整してください。(トルクは使用すると徐々に低下しますので、初期は余裕をみて製造しています。)

- トルクと励磁電流の関係は図3に示すようにほぼ比例していますので、電流を調整することによって容易にトルクの調整ができます。
- 製品の仕上がり、または作業状態などを考慮して適正な値に設定してください。

<b>危険</b>	許容連続スリップ工率以内で使用ください。
	許容スリップ工率を超えて使用すると、発熱が大きくなり動作面が赤熱し火災の原因になることがあります。また所定の性能が得られなくなりますので、許容連続スリップ工率以内で使用ください。

図3 励磁電流対トルク特性(代表例)

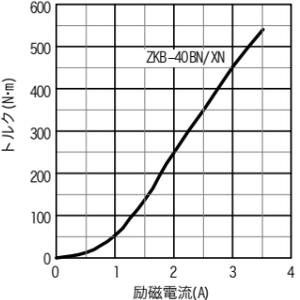
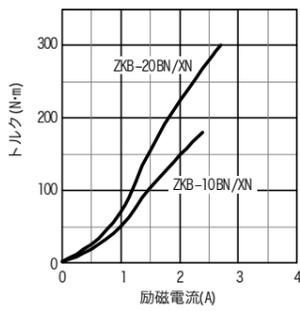
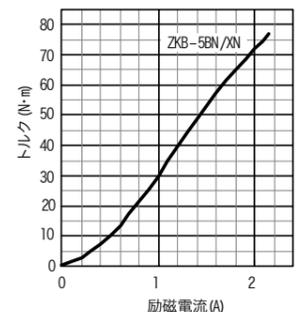
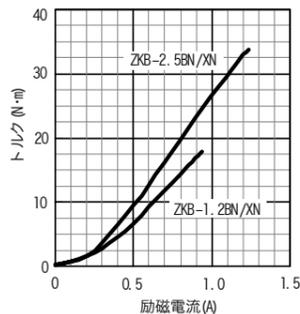
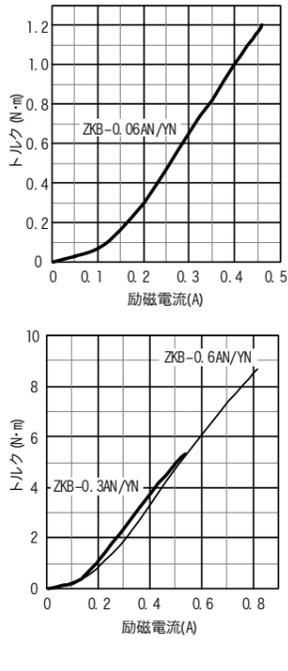
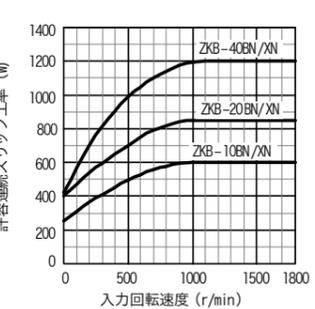
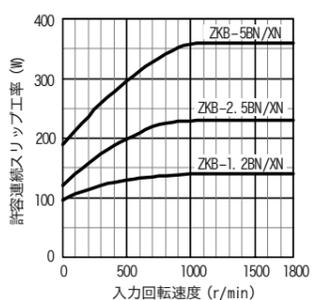
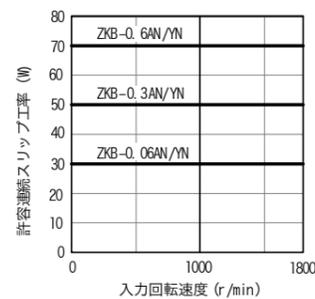


図4 許容連続スリップ工率特性



## 6. 保守

次の項目について点検してください。

<b>危険</b>	電源を切った上、回転体が静止しているのを確認してください。
	回転中に作業を行うことは感電・怪我の原因になります。点検に際しては必ず電源を切った上、回転体が静止していることを確認の上作業を行ってください。この際、指等が挟まれないよう十分にご注意ください。

- パウダが濡ると性能が出ないことがありますので、水や油分が製品内部に浸入しないように考慮してください。特にギヤボックスに近づけて使用する場合は、シャフトを伝わってオイルが浸入する場合がありますので、オイルのシールは完全に行ってください。
- 使用条件によってパウダの寿命が異なるため、パウダの交換時期は明示できませんが、トルクが初期の値の70%以下に減少すれば交換時期と判断します。しかし、実際にはトルク値の確認は困難なので製品の仕上がり、作業状態などから判断してください。また、トルクが低下しても、励磁電流を上げればトルクは上がりますが、定格電流まで上げて必要トルクが出なくなった場合はパウダを交換してください。なお、パウダの交換は当社指定のサービスネットワークにて行ってください。
- カップリング取付用のボルトなどの緩みがないかチェックしてください。

<b>注意</b>	製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱ってください。
-----------	-----------------------------

## 7. 故障の発見と処置

故障の状態	故障の原因	処置
<ul style="list-style-type: none"> <li>トルクの出方が低い。</li> <li>励磁電流を流してもトルクが発生しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ならし運転の不足。</li> <li>水または油によってパウダが濡っている。</li> <li>パウダの劣化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再度ならし運転を行う。</li> <li>パウダの交換。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>電流を流さないのにトルクが発生する。</li> <li>回転毎にトルクが変動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベアリング不良。</li> <li>パウダの劣化、焼結。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベアリングの交換。</li> <li>パウダの交換。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>表面温度が90℃を超える。(自然冷却)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーバーロード。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用条件を緩くする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>表面温度が70℃以上になる。(強制空冷)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーバーロード。</li> <li>風量不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用条件を緩くする。</li> <li>風量を増加する。</li> </ul>

<b>注意</b>	温度測定は計測器をご使用ください。
	直接手で触れると火傷の原因になります。必ず電源を切った上、回転体が静止していることを確認して計測器で測定してください。なお、測定はすみやかに行ってください。

なお、故障の状態が手に負えない時、または部品を交換する時には、クラッチの形名のほかに製造番号もあわせて当社代理店、サービスセンター、または営業所までご連絡ください。また、修理・分解は当社指定のサービスネットワークにて行っていただきますようお願いいたします。

三菱電機及び三菱電機指定以外の第三者によって修理・分解・改造されたこと等に起因して生じた損害につきましては責任を負いかねますのでご了承ください。

## 8. 仕様

定格電圧 : DC24V											
仕様	形名	ZKB-0.06AN 0.06YN	ZKB-0.3AN 0.3YN	ZKB-0.6AN 0.6YN	ZKB-1.2BN 1.2XN	ZKB-2.5BN 2.5XN	ZKB-5BN 5XN	ZKB-10BN 10XN	ZKB-20BN 20XN	ZKB-40BN 40XN	
トルク (N·m)		0.6	3	6	12	25	50	100	200	400	
定格電流 (A/75℃)		0.46	0.53	0.81	0.94	1.24	2.15	2.4	2.7	3.5	
コイル抵抗 (Ω/75℃)		52.1	45.1	29.7	25.6	19.3	11.2	10.0	8.9	6.9	
コイル絶縁抵抗		DC500Vメガーで10MΩ以上/常温、常湿にて									
パウダ質量 (g)		3.5	7.5	10	20	33	60	140	225	370	
製品質量 (kg)	AN/BN	1.8	3.3	4.0	5.5	10	16	37	58	108	
	YN/XN	1.7	3.1	3.7	5.2	9.0	14.5	34	53	100	
ベアリング		6000	6202	6202	6003	6005	6206	6307	6308	6310	
自然冷却時の許容連続スリップ工率 (W)		図4参照									
強制空冷時	風圧 (×10 <sup>4</sup> Pa)	-	-	-	3	5	10	6	5	20	
	風量 (m <sup>3</sup> /min)	-	-	-	0.2	0.4	0.6	1.1	1.6	2.0	
	許容連続スリップ工率 (W)	-	-	-	250	380	700	1100	1900	2800	
ブラケット締付けボルト強度		ボルト・小ねじの機械的性質 JIS B 1051 の強度区分 II 欄 7T 相当以上をご使用ください。									
締付けトルク (N·m)		5.5~7.0		8.0~13.5			39~65		65~109		
許容回転速度 (r/min)		1800					1800				

- ベアリングはパウダクラッチ/ブレーキの特性を生かすよう耐熱性等を考慮した特殊品です。
- 風圧は参考値です。

## 9. その他

- 名板の形名に、例えばZKB-5BN-001のように、001の3桁の数字がついている製品は、取付寸法・電圧・その他が特殊であり、この取扱説明書と相違する所がありますが、基本的な動作・取扱いの注意内容は変わりませんのでご了承ください。
- 構造図は代表例です。仕様を含めて機種・特殊内容によっては異なることがあります。詳細はお問い合わせください。

保証について  
当社の責に帰すことができない事由から生じた損害、当社製品の故障に起因するお客様での機械損失、逸失利益、当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、二次災害、事故補償、当社製品以外への損傷およびその他の業務に対する保証については、当社は責任を負いかねます。

<b>安全にお使いいただくために</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>この製品は一般工業を対象とした汎用品として製作されたもので、人命にかかわるような状況下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。</li> <li>この製品を原子力用、電力用、航空宇宙用、医療用、乗用移動体用の機器あるいはシステムなどの特殊用途への適用をご検討の際は、当社の営業窓口までご相談ください。</li> <li>この製品は厳重な品質管理体制の下に製造しておりますが、この製品の故障により重大な故障または損失の発生が予測される設備への適用に際しては、バックアップやフェールセーフ機能をシステムの的に設置してください。</li> </ul>

<b>三菱電機株式会社</b> 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 (東京ビル)	
お問い合わせは下記へどうぞ	
本社機器営業課..... (03) 3218-6740	中部支社..... (052) 565-2326
北海道支社..... (011) 212-5793	豊田支社..... (0563) 34-4112
東北支社..... (022) 216-5546	関西支社..... (06) 6347-2821
関東支社..... (048) 600-5835	中国支社..... (082) 248-5445
新潟支社..... (025) 241-7227	四国支社..... (087) 825-0055
神奈川支社..... (045) 224-2623	九州支社..... (092) 721-2247
北陸支社..... (076) 233-8502	

<b>三菱電機システムサービス(株)</b> サービスのお問合せは下記へどうぞ		
北日本支社..... (022) 238-1761	中部支社..... (052) 722-7601	中四国支社..... (082) 285-2111
北海道支社..... (011) 890-7515	北陸支社..... (076) 252-9519	四国支社..... (087) 831-3186
東京機器支社..... (03) 3454-5221	関西機器支社..... (06) 6498-9728	倉敷機器SS..... (086) 448-5532
神奈川機器SS..... (045) 935-5420	京浜機器SS..... (075) 611-6211	九州支社..... (092) 483-8208
関東機器SS..... (048) 652-0378	姫路機器SS..... (079) 281-1141	長崎機器SS..... (095) 634-1116
新潟機器SS..... (025) 241-7261		

インターネットによる三菱電機FA機器技術情報サービス  
MELFANWeb ホームページ : <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb/>

<b>三菱電機FA機器電話、FAX技術相談</b>		
●電話技術相談窓口(姫路製作所) ※土・日・祝祭日除く		
対象機種	電話番号	受付時間※
デジコンコントローラ全般 クラッチブレーキ全般	079-298-9868	月曜、火曜、木曜 9:00~19:00 水曜、金曜 9:00~17:00
●FAX技術相談窓口(FAX技術相談センター) ※土・日・祝祭日除く		
対象機種	FAX番号	受付時間※
上記対象機種	052-719-6762	9:00~16:00(受信は常時)